

## 第7章

# 環境保全啓発活動



## 第7章 環境保全・啓発活動

### —持続可能な社会を目指して—

高度な経済成長と共に私たちのライフスタイルが変わり、便利さや物質の豊かさなど優先した結果から大量生産・大量消費・大量廃棄といった状況が生じています。これは地球温暖化や生物多様性といった地球的規模の問題につながります。

自分たちの生活を見直すことが、地球規模の問題解決に役立ちます。自家用車の使用・冷暖房の温度設定・待機電力などに気をつける・・・日常生活の中でできることを無理せず力まぎ行う・・・など、持続可能な社会の推進のためには、継続して行うことが大切です。

本市では、持続可能な社会の実現に向け、市民への環境保全活動・活動の啓発等を実施しました。

環境教室やかたの環境講座の開催などの啓発・学習事業を展開するとともに、環境基本計画の推進など市民と協働の取組を推進しました。また、市役所の事務事業からの環境負荷低減については平成 19 年度から環境マネジメントシステム(環境自治体スタンダード:LAS-E)を運用していましたが、平成 28 年度からは独自のシステム(交野市環境マネジメントシステム:K-EMS)の運用を開始しました。

#### 1. 環境教育

環境にやさしい暮らしを啓発するため、以下の事業を実施しました。

##### (1) こどもエコクラブの支援

(財)日本環境協会が実施している「こどもエコクラブ事業」に基づき、市内のこどもエコクラブに対して、情報の提供等を行いました。

登録クラブ 2 クラブ(平成 29 年 3 月末日時点)

クラブ名	クラブ員数	サポーター数
かたの少年少女クリーンパトロール隊	22 人	9 人
きさいち植物園こども探検部	10 人	5 人

##### (2) 夏休み環境教室

里山の大切さや竹の活用について学んでもらうことを目的に開催し、流しそうめんや竹を使った工作を実施しました。

実施日:平成 28 年 7 月 25 日(月)

場 所:星の里いわふね

参加者:20 名

講 師:都市近郊の森を育てる会

##### (3) かたの環境講座

温暖化を始めとする環境問題への対策には、市民一人一人の足元からの行動が必要ですが、その重要性を認識してもらうことが最も難しい課題でもあります。その課題にひとりでも多くの市民が気付き、行動して頂けるよう啓発し、また、環境保全活動のリーダーとなる人材を育成することを目的として、かたの環境講座を 5 回開催しました。大阪市立大学理学部附属植物園と共催で、フィールド学習もふんだんに盛り込んだ講座を実施しました。

第 1 回 「身近な野草から紙をつくろう～紙すきを通して環境を考える～」

日 時:平成 28 年 7 月 31 日(日)13:00～16:00

講 師:大阪市立大学 教授 大久保 敦 氏

受講者数:20 名

第 2 回 「タケの不思議発見」

日 時:平成 28 年 8 月 27 日(土)13:30~16:30

講 師:大阪市立大学 講師 植松 千代美 氏

受講者数:21 名

第 3 回 「シダ植物の世界をのぞいてみよう！」

日 時:平成 28 年 9 月 25 日(日)13:00~16:00

講 師:岡山大学 助教 山下 純 氏

受講者数:14 名

第 4 回 「スパイダー・ウォッチング」

日 時:平成 28 年 10 月 29 日(土)10:00~12:30

講 師:追手門学院大学 元教授 西川 喜朗 氏

受講者数:23 名

第 5 回 「紅葉の魔術師」

日 時:平成 28 年 11 月 19 日(土)10:00~12:30

講 師:大阪市立大学院 准教授 名波 哲 氏

受講者数:26 名



#### (4) 学校での環境教育

交野の地域資源である里山を保全するとともに、環境に対する児童の意識醸成を図ることを目的として、小学校の授業にて、竹の伐採、竹工作等の体験を含めた環境教育を実施しました。

対 象:旭小学校 4 年生(2 クラス 62 名)、岩船小学校 5 年生(2 クラス 58 名)

日 時:11 月 2 日、11 日(旭小学校)、11 月 17 日、24 日(岩船小学校)

講 師:交野市環境基本計画推進会議自然環境部会

協 力:交野市環境基本計画推進会議、交野里山ゆうゆう会

## 2. 市民との協働の推進

### (1) 環境フェスタ in 交野 2017 の開催

「広げよう交野から」をテーマとして私たちの暮らしの中から様々な環境を考え、地球環境問題、身近なゴミ問題、里地・里山保全など自然環境問題等について、環境フェスタの開催により広く市民に啓蒙・啓発し、また団体間の交流をはかり、地域からの行動を喚起することを目的とし、市民・団体・事業者・行政が一体となり開催しました。

日 時:平成 29 年 3 月 12 日(日)

場 所:星の里いわふね

来場者数:3,474 名

## 3. 環境基本計画の推進

交野市環境基本計画推進会議(交野みどりネット)と協働で 4 つの分野ごとに基本計画にあるプロジェクトを推進しました。

### (1) 環境基本計画の推進に関する普及啓発

ウォークラリーを開催し、環境に関するクイズやゲームを実施する中で、里山を楽しんでもらい、環境についての啓発を行いました。また、「環境のまち『かたの』環境講座 入門編」では全 6 回実施、のべ 146 名の参加がありました。

環境フェスタへの出展、ウェブサイトの公開を通じて、交野市環境基本計画及び交野市環境基本計画推進会議について、周知を行いました。

### (2) 自然環境分野

プロジェクト 1「里山を知ろう・里山大好き」では、自然環境についての知識と保全活動の意義を周知するため、観察会を 2 回、講演会を 1 回実施し、のべ 109 名の参加がありました。

プロジェクト 2「実践！里山保全活動」の講座は(全 11 回)を実施し、18 名の参加がありました。また、実践活動を 28 回行い、里山の整備・保全に努めました。のべ参加者は 205 名でした。

### (3) エコ生活分野

プロジェクト 3「やる気がでるエネルギーダイエット」では省エネを行う意義と実践に向けての講義として春～夏にかけてはみどりのカーテン、冬期にはエコクッキングを実施し、のべ 108 名の参加がありました。また、環境家計簿のつけ方を紹介することで、省エネやエコの意識向上に努めました。

### (4) エネルギー分野

プロジェクト 1「そらいけ！ソーラーパネル」に関する講座では、ミニ太陽光発電システムを組み立てることで、太陽光エネルギーについての知識を高めました。また、市内の太陽光発電設備や湖南市市民発電所の視察を行いました。参加者はのべ 25 名でした。

プロジェクト 2「星のまち☆エコドライブ」の普及のためにセミナーとエコドライブシミュレーターの体験会を行い、ステッカーを進呈しました。参加者はのべ 92 名でした。

## 4. 環境マネジメントシステムの構築・運用

すべての職員が、環境の視点を持ちながら業務に当たることを目指し、環境自治体会議のシンクタンクである環境政策研究所が、環境自治体と呼ぶにふさわしい自治体の目安として制定した LAS-E(Local Authority's Standard in Environment:環境自治体スタンダード)に沿った環境マネジメントシステムを構築し、19 年 6 月より運用を開始してきました。平成 28 年度からはこれまで LAS-E で構築したノウハウを生かし、システムの効率化と本市の実情に応じた環境に配慮した事業の定着を図るため、K-EMS(独自環境マネジメントシステム)を導入し、運用を行いました。

各職場における省エネ・省資源行動の徹底や、職員への研修の実施、環境情報の市民への公表など取組を進めました。また、LAS-E の特徴の一つであった市民による監査も引き続き実施しました。

### (1) 監査

#### ○内部監査(自己監査)

実施日:平成 28 年 12 月 26 日～平成 29 年 1 月 19 日

#### ○2次監査

実施日:平成 29 年 1 月 25 日

対象部局 24 部局

推進本部員 5 名

監査員 15 名(市民 7 名、市職員 5 名、専門家(事業者)3 名)

#### ○監査結果概要

対象部局(優良:27 件、改善提案:13 件、指摘:1 件)

推進本部員(優良:0 件、改善提案:1 件、指摘:0 件)

### (2) 目標達成状況

K-EMS では事務事業において排出される温室効果ガスの削減及び環境負荷低減のため、目標を掲げ、省エネルギー・省資源の取組を推進しています。平成 28 年度の目標及び結果は次のようになりました。

#### ① 平成 28 年度 温室効果ガス削減取組結果一覧

温室効果ガス排出量については、平成 26 年度を基準として、平成 32 年度までに 5%削減することを目標としています。

項目	H28 結果	基準値 【H26 年度】	削減率
電気使用量 (kWh)	14,221,757	14,180,522	-0.3%
ガソリン使用量 (ℓ)	57,491	57,294	-0.3%
軽油使用量 (ℓ)	61,573	67,632	9.0%
灯油使用量 (ℓ)	10,933	168,152	93.5%
LPG 使用量 (kg)	17,670	18,923	6.6%
都市ガス使用量 (m <sup>3</sup> )	454,337	248,577	-82.8%
温室効果ガス排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	8,631	8,782	1.7%

## ②平成 28 年度 環境負荷低減取組結果一覧

項 目	目 標	H28 結果	基準値	削減率
水使用量 (m <sup>3</sup> )	H26 年度を基準として、H32 年度までに 5% 削減	149,547	157,929	5.3%
廃棄物の排出量 (袋)	H27 年度より削減	37,487	39,577	5.3%
コピー用紙の購入量 (枚)	H27 年度より削減	8,445,175	7,214,350	-17.1%
太陽光発電の設置数 (基)	H26 年度を基準として、H32 年度までに 3 基以上設置	2	3	—
低公害車の導入量	H26 年度を基準として、H32 年度までに 10 台以上導入	2		—
環境に配慮した施策事業数	環境に配慮した施策・事業の数を前年度より増加	60		—

### 5. 他自治体などとの協力・交流

#### 環境自治体会議

平成 18 年度から加入した環境自治体会議(1992 年設立)は環境自治体会議をめざす自治体が、情報交換や相互交流、研究・実践活動を進める場として創られたネットワーク組織です。

第 24 回環境自治体会議「東京会議」に参加しました。

①日 時 平成 28 年 5 月 28 日(土)、29 日(日)

②場 所 東京都江東区

③内 容 5 月 28 日 論点提起「持続可能な地域づくりに外の力の利用は有効か？」  
 パネルディスカッション  
 テーマ「外の力を利用した地域づくりへの挑戦  
 ～NPO、ベンチャー企業、研究者の活かし方」  
 3 のテーマごとに分科会を実施  
 5 月 29 日 企画シンポジウム、エクスカージョン、一般発表  
 総括セッション「内の力を引き出す外の力の賢い使い道」